

教育実習生の思い出

校長 武井 正明

これまで何人かの教育実習生を担当したことがある。

その中で、忘れられない実習生がいる。

私が岩室中学校に勤めていた頃だ。

その彼は私の大学の後輩。しっかり人の眼を見て話を聴く実直な男だった。自分からどンドン子どもの中に入っていき、あっという間に中学生の心を驚嘆みにした。優しさあふれる彼の姿勢に、当時「力の生徒指導」で生徒を抑え込んで、それがベストだと思い込んでいた私はショックを受けた。

教科は技術科。これも担当の先生に積極的に指導を乞い、熱心にメモを取りながら指導のポイントをチェック、授業準備に余念がなかった。

そして彼の授業は、教育実習生のそれではなかった。とにかくうまいのだ。

見ていて面白い。そして、子どもたちの技能がぐんぐん上がっていくのが見てとれた。

これはきっと将来、素晴らしい先生になるぞ。

実習の二週間は瞬く間に過ぎ、最後は彼とがっちり握手して「待ってるからな!!」と肩を叩いた。彼も「ハイ！頑張ります!!」と頷き、爽やかな涙で去っていった…。

それから時は経ち、そのこともすっかり忘れてしまっていた頃…。

今もそうかな。当時は冬になると、赤塚の佐潟に白鳥がいっぱい来た。娘に白鳥でも見せてやろうか、と夕方、ふと思い立って妻と3人で佐潟に向かった。

寒空に多くの白鳥たちが飛び交う。湖面は鴨もいっぱいいた。娘は歓声を上げ喜んだ。

とその時、屋台の焼き芋屋が、長い白煙を出して近づいてきた。

おっ、いいところに来たな。ここはひとまず焼き芋でも食べて、温まるとするか…。

すると、屋台の中から「武井先生!! お久しぶりです!!」ん?…見覚えのある顔。

おーっ!! なんと、あの時の彼じゃないか!…えっ!?!、焼き芋?

「いろいろありまして…。今、焼き芋売ってるんですよ。先生、オマケしておきますね」

彼は紙袋に2本多く焼き芋を詰めると「先生、お元気で」とあの時と変わらぬ笑顔で去っていった。

その時食べた焼き芋は、とってもおいしかった。優しく甘い味がした。

教師としての再会が叶わなかったのは残念だったけれど、彼が選んだ道だ。彼は今この仕事で、多くのお客様に幸せを届けているのだ。それも優しい彼らしくて、いい。

あれから30年…。彼は今、どうしてるのだろうか…。